

●：2つ以上の意見

通いの場・交流の場
地域情報源
行政と法人等と連携した子育て支援

cafe aonaがある

すこやかやちょこネットなど、
子育てに関する情報の提供源が
増えてきた

すこよかの設備や事業が充実し
ている

行政所有の場に「子育てカ
フェ」があること（コサイ
トも）

子ども・若者総合支援事業「こ
こあ」がある（中高生の支援）

相談ができる場所、団体が多く
充実している。

気軽に参加できるイベン
ト（予約不要の）がある
とよい

常設のプレイパークがない（学校で
も家でも塾でもない「サードプレイ
ス」の必要性）

小学校入学前に集える場所・イ
ベント・居場所がない

地域に存在する「人財」活
用

商業・医療・子育て（福祉）施設併設の場

児童館が多い

子育て支援施設「こどもとフ
ラット」

重度障害児対応の可能な学童ク
ラブがある

発達センターがある

障害児対応の学童クラブへの車
両送迎サービスがある

「ゆりかご調布」事業

児童養護施設が2つもある

大きな公園がある

保育園などで、道路の近くであ
るのに急な飛び出しなどへの注
意喚起が少ないところがある

民間（講師など）とのコラボ

地域に身近な児童館に子育てひ
ろばで交流や相談ができる

孤立させない（きっかけ）
相談体制

子育てひろばにて、一般来館した
親が助産師に相談ができるよう
になっている。

コロナ禍の子どもへの商品券配布

地域振興券がもらえてうれしい

児童虐待防止センターでは虐待防
止の相談・支援体制の充実に取り
組んでいる

ひとり親家庭への支援

子どもを育てやすい公的サービス

0～2歳の保育園入園が厳しい

幼稚園の入園金の補助額が少ない

保育園空き定員を活用した低年齢児の受入

待機児童対策

子どもを育てやすい環境整備

市内各地域（ベビーカーで行ける
範囲）の児童館で子育てひろばが
ある

公園が多い

遊び場が多い

すこやか、駅近商業施設併設。遊
び場・相談など集約されている

保育園の数が多い

大学病院が複数あり、病院も多い

自然が多い

子ども食堂が多い（子ども食堂
ネットワークもある）

公園あり方見直し（遊具すべてで
なく、様々な方が利用できる仕掛
け）

デジタル化

コロナ禍で、出産前後に、相談などがしづら
くなっている。そういう機会の創出をオンラインで
増やすことができれば

共働き家庭やひとり親の家庭が増えているので、
行政窓口の開設時間内の利用が難しい。各種申
込みや書類申請などは、デジタル化（アプリなど
いつでも申請可能、データで発行など）を。

予防接種や健診、保育園入園申し込み、その後の
連絡もデジタル化導入が望ましい（一日中結果通
知の郵便を待つ、ということ自体が時代にそぐわ
ないような...）

災害時の母子保健対策
情報伝達手法の課題

防災時の避難所における母子（とく
に乳児）の環境整備について（母乳
育児が継続できることが大事。それ
によってミルクが必要な人のとこ
ろに届くというメリットも）自転車置
き場に子乗せ自転車専用スペースが
欲しい

児童館・子育て関連施設の全般的な
老朽化

支援センターが少ない、地域ごと
にあるといい

子ども連れで行ける個室のある飲
食所が欲しい

自転車置き場に子乗せ自転車専用
スペースが欲しい

自転車に乗ったまま食べ物が買
えるお店が欲しい

公園の遊具の数を増やしてほしい

学童ではない「何か」があるとよ
い

小児初期救急平日・準夜間診療を
実施している

産前からの切れ目ない支援が不足

気軽に相談できる窓口が不足

子育てだけでなく、複合的な問題
を抱える親への支援がどのように展
開されているのか

子育て分野における行政内の縦と横
の関係性、外部との関係はどのよ
うになっているのか

街なかで「子育て中の人たちをサ
ポートしたい」という意識は薄い
（保育園が迷惑、公演で遊ぶ子ど
もの声がうるさいと感じる人が多い）

医療費が無料でない（隣接区市は無
料）

相談ができる場所、団体が多く充
実しているが広報しきれていない。
知らない人も多い。

就学前と就学後の情報共有が少な
い

18歳の壁

安心して遊べる遊具がほしい

個性ある公園・居場所

通知・申請系のデジタル化

ゆりかご調布面接(オンライン面接)

すこやか子育て面接(ワラビ面接)

その他

子どもが安心して通れるよう
に道路整備をしてほしい

防災・フェーズフリー

避難所では子供のいるエリアを分けるなどの配慮
がほしい。

●：2つ以上の意見

児童の過ごす場（中高生向けを含む）

学校併設の学童が多いのは安心

学童クラブ・ユウフォーの一体的運営

中高生向けの児童館（調布市青少年ステーション）がある

調布には児童の過ごす場の選択肢が多い

中高生対象施設である青少年ステーションCAPSがある。

学童クラブ入会保留児への対応

すべての学校・その付近にて放課後子供教室事業（ユウフォー）を実施している

交流

放課後の過ごし方として、ユウフォー・学童クラブ・児童館と選択ができる環境を提供している

何もしない・居場所があるとよい

児童館が中高生の居場所になっている

児童館が中高生の居場所ではあるが、ニーズに対応しきれていない

Kiitos（青少年の居場所）の存在

安心・安全を踏まえた施策・コロナ禍における児童等への対応

防災教育の日における、防災教育と地域等との連携

学校だけで抱え込まずアウトソーシングも（ここあ活用）

命の教育

教育機関における縦のつながり（中高大）の連携

防災への備え（訓練のマナー化、いざというときにフレキシブルに動けない可能性があるのではないかなど。子供の命を本当に守れる準備があるのか？東日本大震災時の大川小の事例を踏まえ、訓練も毎年工夫があったほうがよいと思います）

小学生の遊ぶ場が狭まっている（公園でのボール遊び禁止など）

コロナ禍でのイベント開催についての判断が校長に委ねられており、実施有無に差がある

スクールゾーンへの車両進入禁止などの対策

防災に関する取組が少ない印象を受けるので、他団体の取組を参考にした方がいい

個人情報の保護に囚われすぎないでほしい

防災に関する記事をあまり見かけない

医療費が無料でない（隣接区市は無料）

広報がしきれていない

調布市独自に実施している防災教育の日における、防災教育と地域等との連携の推進

生徒一人一人へ向き合った学習・対応

児童・生徒の安全・安心への取組

不登校や配慮児童に対する専門的な支援

困難を抱える中高生・大学生のニーズの把握に課題

いじめや不登校への対応（防止ではなく、起きたときの対応）

不登校対策（教育相談所、適応指導教室「太陽の子」、不登校特別校分教室「はしうち教室」、メンタルフレンド、テラコヤスイッチ）

家庭訪問を再開してほしい(虐待・ネグレクトやヤングケアラーなどの早期発見になる。話をすることで学校への応援団になってもらえる)

学習環境の充実

近年の猛暑対策として他団体に先駆けて普通教室のエアコン整備完了

学校によっては教員の不足が生じている。35人学級対応

子どもの中学校の通学する本人たちの姿を見て、カバンの重量が昔よりずっと重くなっている。

令和2年で小学校体育館・令和3年で中学校体育館でエアコン空調整備が完了

不足教室の発生

学校施設の老朽化が進んでいる

小学生にはタブレットは早すぎてできない子が半分以上いる。

通常級・支援級の壁のない教育体制（交流）

安全・安心な給食の提供

安全・安心な給食の提供

食育の推進

自校方式のおいしい給食

「食は生活・暮らしの基本中の基本」

他の隣接や全国的に有機給食で無償化が計画進んでいる。

街で「和食」を推奨することが必要、これにより給食のコメ消費が増えると、家庭でもコメ食が増え、主食のコメが復活しカロリーベース国内自給率が向上する。

自治会や地域団体の担い手

若者（中高生、成人前の世代）に対するあらゆる支援および施設が不足している

児童・生徒数増加による教室整備・一人一人と向き合う時間の確保

健全育成団体の新たな担い手の不足，委員の高齢化

若い世代に，調布に興味を持ってもらえるような仕組みづくりが必要

● : 2つ以上の意見

地域からの見守り

子供達に関連する機関との連携がある程度取れているところ	コロナ禍における市内大学生への支援
中・高校生世代対象の施設 (CAPS)	防犯カメラの設置による安全対策の拡充
学校の生徒数が多い (競争意識が芽生え切磋琢磨できる)	将来を担う子どもたちに持続可能な開発のための教育 (ESD), SDGS教育を充実させる必要がある
児童館が多い	大学生世代の居場所課題 (年齢幅広く)
子ども・若者総合支援事業「ここあ」	コロナ禍での外出機会の減少
学校区が横断できる	顔合わせることの大切さ
地域における自主的なフードバンク・フードパントリーの取組	

スポーツ等を通じた地域交流・学習機会

地域の子供を把握している。継続的に見守れる	親が外国人であり、日本語が話せない児童向けの日本語教室	タブレット導入を機会に、不登校の子どもたちも授業に参加できる配慮をしてほしい=教育を受ける権利
体験型の自然環境を学ぶ機会 (環境教育) が充実している	調和SHCクラブ	学校によって不登校対応の差がある (ステップルームのありなし etc...)
自然や芸術を地元で学ぶ機会がある	健全育成委員会が充実	再出発の支援不足。たとえば高校を中退したその先のフォローがしづらい
調布市の取り組み「パラハート」の視点を、積極的に教育に導入している例がある (飛田給小学校)	東京2020大会開催地としてのレガシー創出に向けた取組・教育	市内地域によって施設・サービスの偏り
各地域の青少年健全育成団体の全地区合同のソフトボール大会を市主催で開催	不登校、引きこもり支援	体育館やプールなど遊べる施設が遠い
	夜間学校開設	若者 (19歳~) 支援が弱い。中・高校生世代の施設はあるが、その世代で支援が途絶えてしまうのはもったいない。やっている団体も少ない。
	再教育・外国の方の学び	

その他

タブレットの導入やワクチン接種の対応が早かった	子どもの魅力的な仕掛け
地域振興券がもらえてうれしい	身近な場
中高生の「他者への思いやり」「異文化の理解」などダイバーシティを育む取組を進める必要がある	個性がより認められる教育体制
多様性認める教育が十分にできていない	個性の理解
学校教育の中で、障害者に対する理解が進んでいない	

デジタル化

通学路への防犯カメラ設置	オンライン授業は教師の習熟度によって差があった
オンライン授業の実施	保護者会も関係性が深まらない状況で、オンラインを活用すべき
タブレット導入により、できることは格段に増えたと思います。しかし学校によって (指導教諭によって) 活用できているところと、それほどでもないところが出ているのではないのでしょうか。そのような形での教育格差が是正されるような取り組みもセットで検討する必要があると考えます。不登校児にも教育機会を提供するきっかけにしてほしい	オンライン授業でひとりの先生が約80人を対応。不慣れ。対面授業しつつ、デジタル併用が望ましい
オンライン授業, 不登校の人や病気療養中の人には良い制度なので、継続的に実施してほしい	オンライン授業で集中できない生徒もいる

●: 2つ以上の意見

行政と法人等と連携した福祉のまちづくり
障害児・者支援情報の発信

行政の制度でカバーしきれない部分を、社協などの事業でカバー。新規事業も多数立ち上がり福祉が充実している。

生活福祉課にて就労支援サポートの窓口を設置している

子ども・若者総合支援事業「ここあ」にて、市3課一体として相談・学習支援・居場所提供事業を実施している。

市報やフリーペーパーなど、障害者支援の記事をよく見かける(障害者支援に力を入れているのがわかる)

他自治体より、地域福祉に関わる専門職(地域福祉コーディネーターや地域支え合う推進員)が多い。

行政の福祉三計画の策定の年度が一緒(表現もそろえられており、連携が取れている)

行政との距離が近い

通いの場・交流の場

作業所等連絡会のように、事業所間の横のつながりがある

障害分野においては親の会と施設運営者との距離が近く、ニーズを把握しやすい。

すこやか

ほっとれーる。優先席もありトイレもよい

放課後等デイサービス施設が増えてきた

CSWが増えたことで、地域のニーズをスピーディに吸い上げている

常設の通いの場の設置

ニーズに合った様々なつながりの場・資源

情報伝達手法
生活困窮家庭、当事者(介護者含む)の実態を踏まえた支援
各窓口の在り方

調布市の福祉サービスが良くわからない

困窮家庭への支援が届きづらい(学生、生活用品配布の事例)

ヤングケアラーへの支援(特に精神面)がない

多摩児相が遠いので手続きを市役所でしてほしい(分駐)

高齢者支援が他の市区町村に比べ少ない(免許返納でタクシーチケットがもらえるなど)。HPが見にくくてわからない(欲しい情報が見つかりにくい)

生活困窮者の相談窓口として「調布市生活ほっとあんしん相談事業」により必要な支援につなげている

図書館の利用支援サービス(障害者サービス等)が充実している

ユニバーサルデザインのまちづくり
ハード・ソフトのバリアフリー対策

甲州街道・旧甲州街道のような調布の大動脈において歩道が狭く、車いす等での通行が困難。調布市の福祉サービスが良くわからない

障害者理解の取り組みが不足(適正かどうかも疑問)

成人した障害者に対する余暇活動ができる場がない

障害者の移動支援のサービスが先細っている

市内特養の入所がかなり困難

ヘルプカードをマークだけにして「調布市」を取ってほしい(首から下げるのではなくかばんや服につけるタイプにしてほしい)

地域・公的サービスによる見守り

健康教室や出張系のイベントがある

子ども食堂・大人食堂等の支援や交流サロンのような機会が増えた

ふれあい給食は調布独自

ゴミ袋の無料配布はありがたい

子供家庭課の方の対応がよい

ワクチン接種の対応が早かった

受動喫煙防止条例(子どもの受動喫煙防止)

医師会が地域と近い印象がある

福祉圏域の福祉コーディネーターを軸とした地域課題の解決

みまもっと
地域包括支援センター
医療的ケア対応

多世代含めた交流

デジタル化

施設の運営などは対人支援業務のため、デジタル化には限度があるが、ICTを利用して可能な限り効率化を進めようとしている

「スマートフォンを使えない」世代への支援は必要だが、いずれはすべての世代の人が使える時代に。使えない人に使い方を教えると同時に、申請代行(信頼性を担保した上で)などのサービスも提供してほしい。

多文化共生社会に向けた認知方法がアナログ

申請書等の書類入力をデジタル化可能な部分は最大限してほしい

HPが見にくい(欲しい情報が見つかりにくい)

ニーズにあった通いの場・交流の場

地域住民同士の繋がりを得られる機会が少ない

認知症や独居の高齢者の居場所がない(歩いて行ける距離のところに、集える場所がほしい)

目に見えない人たちの「孤立」対策が不足(福祉の政策範囲に入らないだけに、孤立している人は多いのではないかと例:非正規の若者)

おむつ補助の対象を広くしてほしい

砧公園にあるインクルーシブや遊具が調布にも欲しい

広報がしきれていない。まちを挙げた打ち出しがない

住民が交流する場、参加の拡充

共生社会を目指して、より様々な機関が縦ではなく横につながり、強い連携や協働が求められていると感じる

防災・フェーズフリー

2019年の台風では施設やグリーンホールを避難所とするなど、一定の成果が見られた。

災害発生時の要支援者の避難ケアの推進

地域福祉センター等、講座を行うような施設にWi-Fiがない

当事者の想いと他者とのギャップ(差別)

第5回会議 分科会1 まとめ

強み

弱み

テーマ① 子ども・子育て支援

ゆりかご調布面接(オンライン面接)

すこやか子育て面接(オンライン面談)

デジタル化によるサービス向上

児童館が多い

民間(講師など)とのコラボ

地域に身近な児童館に子育てひろばで交流や相談ができる

孤立させない(きっかけ)

地域に存在する「人財」活用

公園あり方見直し(遊具がすべてでなく、工夫した様々な方が利用できる仕掛け)

個性ある公園・居場所

テーマ② 学校教育, 青少年健全育成

通常級・支援級の壁のない教育体制(交流)

大学生世代の居場所課題(年齢幅広く)

子どもの魅力的な仕掛け

個性がより認められる教育体制

身近な場・居場所

個性の理解

コロナ禍での外出機会の減少

本当の多様性の理解

顔合わせることの大切さ

大人の理解(不足・制限・ものさし)

テーマ③ 健康づくり, 福祉(地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉)

お互い知り合えるような地域・つながり

住民が交流する場, 参加の拡充

日常的に顔を合わせる場

多世代(だれもが)含めた交流

ニーズに合った様々なつながりの場・資源

当事者の想いと他者とのギャップ(差別, 同情) 「本当の当事者理解」